

| | |
|----|-----------|
| 年度 | 平成16～18年度 |
|----|-----------|

基本目的 7 確かな学力と豊かな人間性をもった子どもが育つ

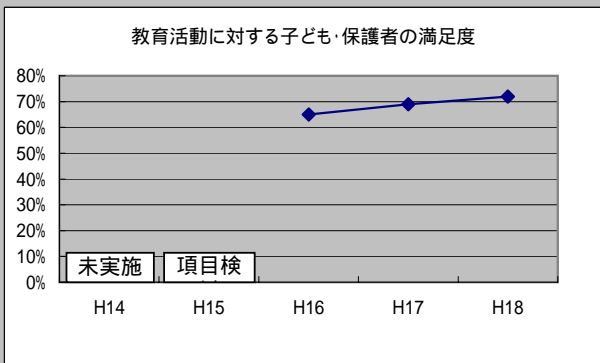
行動目標 7-1 児童、生徒が社会人となるための基礎が培われる (所管課名 教育委員会指導課)

| | |
|-----------|--|
| 任務 | 各学校、園の教育課程の編成・実施、学習指導、生徒指導等の教育活動の指導・助言を行う。 |
|-----------|--|

任務の成果・活動指標の推移

教育活動に対する子ども・保護者の満足度(80%以上の園・学校)

| | |
|-------|--------|
| H14実績 | 調査未実施 |
| H15実績 | 調査項目検討 |
| H16実績 | 65% |
| H17実績 | 69% |
| H18目標 | 72% |



指標の説明

園・学校が進める教育活動に対する子どもや保護者の満足度を指標とした。この満足度は、園や学校がそれぞれに策定している園・学校づくりビジョンを基に進めている教育活動に対して、子ども・保護者・教職員が評価したものである。この評価から課題やニーズを的確に把握し、保護者・地域に信頼される園・学校づくりを推進していく。

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度

○基礎学力向上に向け、到達度検査結果を分析し、学習方法改善等を提言してきた。市の子どもの学力は、概ね全国平均もしくはそれ以上、課題の改善も進みつつある。
 学校への司書派遣により、環境整備や図書館利用が促進され、読書活動が活性化されつつある。
 ○学校特色化に向け、各校が創意ある教育活動を進めている。特に保護者の学習支援や地域の教育力を活用した活動により、地域連携が深まりつつある。
 ○中学校英語は到達度検査で高い水準を示しており、ネイティブの派遣、指導方法の研修等、学力向上を図ってきた成果と考える。また、英語によるコミュニケーション力向上を目指し、小学校英語活動カリキュラムを作成した。
 ○不登校児童生徒は減少傾向にあり、問題行動についてもH13年度の3分の1の件数で推移している。これは、各校の努力とともにスクールカウンセラー等の派遣、第2係の的確な指示、関係機関との連携等によるところが大きい。さらに、取り組みの強化・充実が必要である。
 ○外国人児童生徒は、年々の増加し、使用言語も多種となるなか、適応指導員の派遣時数を増やしているもののまだまだ不十分な状況である。

平成18年度

基礎学力向上に向けた提言並びに今後の推進体制・方策の検討を行う。また、園・学校づくりビジョン実現に向け、PDCAによる取り組みを進める。読書活動は、司書・司書教諭・ボランティア等の協働が活性化への課題となる。
 英語活動の推進のため、カリキュラム活用の研修及び改訂を進める。
 不登校及び問題行動への対応及び未然防止のため、教育相談の活用や校内・関係機関との連携の充実を図る。また、外国人児童生徒の適応指導の充実を進める。

これからの課題、施策等展開の方向性

基礎学力向上の継続的な取り組みを推進する。
 園・学校づくりビジョン具現に向け、学校自己評価等で成果を検討しながら取り組みを進める。
 読書活動の活性化が一層図られるよう、司書・司書教諭・ボランティア等の協働を推進する。
 学校英語教育・活動推進のため、小中学校の連続性の検討やカリキュラムの改善を進める。
 学校教育相談機能の充実及び関係機関との連携の充実を図る。
 外国人児童生徒の増加に伴い、必要に応じた適応指導が可能となるよう、指導員派遣の充実を図る。